

<議事録>

令和2年度第1回
我孫子市いじめ防止対策委員会

日 時 令和2年6月5日（金曜日）
午後3時00分～午後4時30分

場 所 我孫子市教育委員会 大会議室

令和2年度 第1回いじめ防止対策委員会

令和2年6月5日（金）

我孫子市教育委員会大会議室

15:00～

- 1 開会 …（阪路）
- 2 我孫子市いじめ防止対策委員会の設置について…（阪路）
 - ・「いじめ防止対策委員会」設置要綱についての確認
- 3 委員の紹介（自己紹介）
- 4 いじめ防止対策についての取組

○議長：本日は新型コロナウイルスで落ち着かない中ですが、出席をいただきましてありがとうございます。学校については、6月1日に授業が再開されました。2日には入学式が午前中に小学校、午後に中学校で行われました。マスク着用や座席間の距離を確保したり、保護者は1名だけ参加などの対策をとり、また、在校生からのビデオ映像を流すなど工夫して行われました。約3か月におよぶ臨時休校でしたが、授業再開により、いろいろな課題が出てくると思います。学校中心の生活をしていく中で、いじめに繋がらないように教育活動を進めていきたいと思っています。

では、取組について、報告してもらいますが、項目全体を報告してもらい、そのあとご意見をお願いします。

まず（1）「令和2年度 いじめアンケート様式について」からお願いします。

（1）「令和2年度 いじめアンケート様式」について（阪路）

*資料5・6ページは、小学校高学年と中学校用の「いじめアンケート」になっています。

このアンケートは年に2回、無記名で行われています。

*アンケート実施の目的を

①「児童生徒自身」は自分の悩みを打ち明ける場とし、自分を見つめ他者とのかかわりを考える場とする。

②「学校」は、いじめの実態をつかみ、対策の資料とする。

③「教育委員会」は、市内小中学生のいじめの全体像をつかみ、対策の資料とする。

と位置づけて、いじめの早期発見、早期対応に活用しています。なお、今年度は休校期間を考慮し、実施時期を例年の6月上旬から下旬に変更しました。また、アンケートの最初に「臨時休校」と「新しい生活」に関して困っていること、心配なことなどを記載する項目を設けました。

(2) 「令和元年度いじめアンケートによる認知の推移」について（阪路）

*資料7ページがこれまでのアンケートによる認知数の推移になります。問1「あなたは、今、いじめられていますか？」という質問に「はい」と回答した数となっています。

学校（担任）は「いじめアンケート」の集計後、教育相談などによっていじめを受けていると答えた子どもたちに話を聞いていきます。事実を確認したのち相手の子どもを指導したり、学校職員で共通理解を図って、いじめられている子どもの見守りをしたりして、いじめ解消に向けて取り組みます。

教育委員会でも、各学校の状況を把握し、いじめ防止対策担当が学校を訪問して観察や聞き取り調査を行います。第三者の目で学校側に指摘したり、助言したりして、いじめの解消、深刻化を防いでいます。いじめアンケート後に市内全校を訪問していますが、学校からの要請をうけての訪問も行っています。

(3) 「令和元年度インターネットや携帯電話についての調査結果」について（阪路）

*資料8ページは、アンケートの中で行ったインターネットや携帯電話についての調査結果です。

小学校段階では、スマートフォンや携帯電話を半数以上の児童が持っていると回答しています。そのうち25%の児童がスマートフォンを持っています。中学校になると、スマートフォンや携帯電話の所持率は80%を超えます。そのうちの80%がスマートフォンを所持しています。

4年前のスマートフォンの所持率は、小学校では約8%、中学校では、約50%でした。子ども達にとって、スマートフォンがかなり身近になってきたと言えます。

社会ではネットでのいじめも問題が深刻化しています。時代に合わせた広い視野を持ち、学校で起きているいじめだけではなく、悩みや思いを受け止めながら、児童生徒を取り巻く実態をつかむことが重要であると考えています。

(4) 「令和2年度いじめ防止対策に向けての取組」について（阪路）

*資料9ページをご覧ください。先ほど説明したいじめアンケートだけでなく、楽しい学校生活を送るためのアンケートとして、Q-U検査を実施します。

(5) 「Q-U検査を基にしたいじめ防止対策の取組」について（阪路）

Q-U検査とは何か、10ページをご覧ください。

検査は、「学級満足度尺度」と「学校生活意欲尺度」の2つの尺度を基に、児童生徒の心の状態を把握します。どちらの尺度も高ければ、学級生活満足群に位置します。これらの児童生徒は、安心した学校生活を送れていると思われれます。逆にどちらの尺度も低いと、学級生活不満足群に位置します。特に低いところに位置すると要支援群となり、注意深く見守る必要があります。ここに位置する子は、周囲とのかかわりが消極的で、休み時間に一人で過ごすことが多いことや、時には悪口を言われたり、学級にいたくないという思いを持ったりしています。つまり、いじめや悪ふざけを受けていたり、学級の中で自分の居場所を見いだせなかったりしている可能性があると考えられます。このような児童生徒を可視化して見つけ

ることができます。

なお、今年度については、回数と時期については検討中です。

9ページに戻りまして、アンケートの他に、道徳教育の充実を図ったり教職員研修を実施したりしています。

11、12ページは、学校再開に向けて、生徒指導の確認事項をまとめたものです。

新型コロナウイルスに係わる偏見・差別からくるいじめへの対応、長い休校期間などから生じる不安やストレスを抱えている児童生徒のケアを中心に各学校へ伝えました。また、各学校の「いじめ防止基本方針」に基づいて、迅速かつ適切な対応を改めて依頼しました。

(6) 「いじめ防止対策担当の取組」について（阪路）（佐藤）

*資料13ページはいじめ防止対策担当の取組です。担当の佐藤より説明をいたします。

いじめ問題に対し、学校からの報告を待つのではなく、教育委員会が積極的に関わっていき少しでも早く防止・解決に繋がればと考え、行動しています。学校巡回を柱にし、直接児童生徒の様子や学級の雰囲気を観察し、いじめの兆候や学級集団の雰囲気を把握して、先生方と情報交換やアドバイスをを行っています。

最近3ヵ年の1学期には教育研究所の巡回事業と合わせて訪問し、特に発達特性を持っている児童生徒を把握しています。特に1学期はいじめの対象になりやすい傾向があり、トラブルにならないように情報共有しています。また1学期後半にはその経過観察をします。

例年ですと中学校では、部活動での活動状況や人間関係などを観察し、諸大会なども観察し、情報共有します。さらにいじめアンケートやQ-U検査結果について連絡を取り、特別に心配される児童生徒について防止や早期対応をします。

2学期、3学期には、「いじめアンケート」や「Q-U検査」の結果の分析のもと、各校を訪問します。学校が対応した結果や状況を把握し、いじめが心配な児童生徒などを共有し解決に向け継続観察していきます。また、学年末には心配な児童生徒について、申し送りを確実にを行うように依頼しています。

いじめが起こらないように、「いじめに関する資料」を各校に配付し、活用してもらい、有効的に対応するために、教育研究所や子ども相談課と連携をしたりしています。

*経過報告として、3学期に報告した、「アンケート以外のいじめの事案」2件については、登校日には出席し、元気に生活しているようです。また、未解消で経過観察を継続している児童生徒11名についても、出席し、通常的な生活をしています。

*虐待に関係する児童生徒といじめには、現在のところ関連性が見られません。

(7)「我孫子市小中一貫教育共通カリキュラム 情報モラル教育」について（阪路）

(8)「<いじめのサイン>チェック表 学校編・家庭編」について（阪路）

参考資料として、(7)の「情報モラル教育」のモデルカリキュラムと、「いじめのサインチェック表」を添付してあります。現在、学校で活用しています。

(9)「小中学生のためのいじめ・悩み相談ホットライン」について（阪路）

*最後に、「小中学生のためのいじめ・悩み相談ホットライン」について説明します。

いじめアンケートや日頃の生徒指導だけでは、すべてのいじめを見つけることができるとは言えません。児童生徒が、悩みを打ち明けられる窓口が学校だけではないことをいじめアンケートの時期に合わせて教育研究所から子どもたちにチラシを配布したり、市のホームページで周知したりしております。

以上で説明を終わりにします。

5 意見交換

*議長 本来であれば、いじめ担当から、新年度がスタートしてからの継続観察の子どもについて等を報告してもらい、ご意見をうかがうのですが学校が再開して間もないところですので今回はできません。次回には具体的な報告ができると思います。

世間の動きが目を離せない状況ですが、事務局からの報告や説明を受けて、意見交換の時間として進めていきたいと思います。市としては、いじめを未然に発見することを基本としています。それぞれの立場で、疑問点やご意見がございましたらお願いします。

○村田委員：大人にとっても混乱している状況ですから、小中学生にとっては落ち着かない生活だと思います。今後の子どもたちの様子を丁寧に見守っていきたいと思います。

○佐藤委員：4月から5月にかけての休み中の子どもの状況把握はどうでしょうか？

オンラインの学習についてはどうでしょうか？

*戸塚課長：オンラインによる授業については、すべての家庭で準備が整わない状況であり、現在のところ授業は展開されていません。学校ごとに学習課題のプリントを配付し、提出させ理解度をチェックしています。また子どもによっては、家庭訪問をして課題を手渡ししたりして、定期的に子どもの様子の把握に努めています。子ども相談課とも連携を取り、情報収集をしています。今のところ重大事案として気になるようなことはありません。

○久米委員：大学では広範囲から通学しており、感染も心配されます。そんな大学生を見ていて、我孫子の小中学生はどうしているか考えていました。新型コロナウイルスの感染はあったのでしょうか？

*議長：我孫子市ではありません。

○久米委員：この時期、大学でも新しいクラス・友達に馴染めるかどうかが心配ですが、今年は「感染して周囲にわかったらどうしよう」と心配している者もいます。我孫子市では転出や転入はどうでしょうか？どのような対応をしているのか例示があればお願いします。

*丸 部長：まず転入についてですが、4月7日に政府が緊急事態宣言を出しました。我孫子市では6日7日と、始業式ともう一日ありましたので、受け入れについて問題はありませんでした。

また転出した子どもも、3月に通常に近い形で友達とお別れできたのではないかと把握しています。

○紺野委員：授業が再開され、うちの子どもも明るく再スタートしたが、長い期間家に閉じこもっていた状態だったので、授業が始まり、新たなストレスなど今後うまくいくかどうか心配です。

○竹内委員：休みが長く続き、子どもの本音は「登校が面倒くさい」という子もいるのでは？ 夜遅くまで起きていたのが原因だと思います。この委員会のメンバーとして思うのは、何が原因かわからないで欠席している子が心配です。いじめなのか何なのかかわからない子は、この後どう登校していくのか。中には数年前のいじめが原因だという子もいるのではないかと。そういう子どもたちに、どこまで本心に迫って対応できるかが大切だと思います。

*議 長：いじめと不登校とは必ずしもイコールではないと感じます。長欠のまとめが1か月に1回報告されています。原因を探っており、担任が何回連絡取れているかやその時の様子を記録しています。困るのは「なぜかわからないが学校に行きたくない」という子どもです。親が仕事のために早く出て、登校時には子どもだけになり、行く意欲がない子どももいます。経過観察を共有して対応しているが、簡単には解決しない状況もあります。

学校に行けなかった子の中で、「ヤング手賀沼」に通う小学生が増えていることもあり、少しでも前に進む子が多くなればと思います。今後も様々な対応をして重ねていくことが大切だと思います。

○大島委員：中学校では今週から分散登校が始まりました。クラスを半分に分け、午前組4時間授業、午後組同じ内容の4時間授業を行っています。2日間行ってみて先生方にゆとりが取れないです。4時間授業を行って消毒して給食準備、片付けしてまた消毒して4時間授業、終了後また消毒作業。先生方は、一人一人と面談してゆっくり話す時間がないのが現状です。本校では学校独自のアンケートを取っており、それをもとに面談していきたいと考えています。

○鈴木委員：小学校も6日から登校が始まりましたが、まだまだ実態はつかめません。新年度、一人一人の人間関係を中心にクラス替えを行いました。半分登校ですから効果があるかどうかはまだわかりません。「コロナ関連」でのいじめを心配しています。目立つ行為ではなく、小声で「側によるな」「声を出さないで」などのいじめが予想され、職員で共有することを重要視しています。子どもには本能的に人との接触に不安を感じる子もいます。そんな今「新しい学校生活習慣」を確立することが大切だと考えています。それをスタートの2週間を目安に指導していくことで、子ども同士に信頼が生まれると考えています。

○三沢委員：生活保護関係での申請の受付ですが、全国的には増加しているニュースが流れていますが、我孫子市では昨年3・4・5月と今年を比較してあまり差は見られないです。ただ家賃支払いが苦しいのか、家賃補助の申請が増加しています。仕事を失い、収入が減っている方が増えています。また母子家庭では食料確保が苦しく一日一食の家庭もあります。「子ども食堂」等の諸団体による支援もありますが不十分です。市としても苦しい家庭を救えているか苦慮していますが、まずは生活相談をして欲しいです。

○阿部委員：休みの間に、虐待事案を含め、特別に重大なことにならず、ホッとしています。今後も学校関係と連携を取りながら進めていきたいと思えます。

*丸 部長：校長会の中での話ですが、私は「自分が感染したらどうしようかと考えている。子どもたちも先生も保護者もそういう心配をしているはず。今のところコロナ感染はゼロにはならないと考えています。そんな時は『支え合う』ことが大切であり、リーダーがしっかりすることが大切です。学級でも支え合い、助け合う組織になるといいなと考えています」という話をしました。

*議 長：今までと比較できない状況です。こんな時には今までしなかった気遣いをしていく必要があるのではと思います。柔軟な態勢をとり、皆で解決・対応していくしかありません。自分に何ができるかを考えることが大切です。
諸連絡について、事務局お願いします。

6 諸連絡… (阪路)

- ・第2回は、令和2年10月16日(金) 15:00～ 市教委大会議室
- ・第3回は、令和3年 2月18日(木) 15:00～ 市教委大会議室

7 閉会 … (阪路)